

ピオグリタゾン錠 15mg／30mg「EE」 を服用される患者様へ

服用する際の留意点

■ピオグリタゾンと膀胱がんについて

海外の研究でピオグリタゾンを使用した場合に、このくすりを使用していない場合に比べて膀胱がんを発症した患者さんがわずかに多かった*との報告がありますが、ピオグリタゾンが膀胱がんの発生原因と断定されたわけではありません。

※米国の2型糖尿病患者さんの場合、1万人あたり1年で1～2人多かった。

■ピオグリタゾンを処方してもらうときに

何を主治医に伝えたらいいですか？

膀胱がんの治療を受けている場合、または膀胱がんの既往歴がある場合は医師に伝えてください。

■服薬中、服薬をやめた後は何に気をつけたらいいですか？

血尿や頻尿、排尿痛の症状があらわれた場合はすぐに医師に伝えてください。

膀胱がんとは

膀胱の粘膜におこるがんです。日本人では10万人あたり1年で6.9人発症しています（2006年）。膀胱がんの発症率は、胃がんや肺がんに比べて低く、欧米人（欧州：15.6例/10万人年（2008年）、米国：21.1例/10万人年（2004年～2008年））に比べると日本人の発症率は低いことが知られています。

●どのような症状があるのですか？

血尿、ときには頻尿、排尿痛などの症状があらわれることがあります。
（これらの症状は膀胱がん以外でもあらわれることがあります）

●どのような人がなりやすいのですか？

高齢者、特に男性に多いことが知られており、また喫煙習慣のある人は、ない人に比べて2～4倍程度膀胱がんになりやすいといわれています。糖尿病の人は、糖尿病ではない人に比べ、膀胱がんになる頻度が高いとの報告があります。